

あいコープ共生会 2021年度活動報告 (2022年2月25日 総会で承認)

2021年度方針「①あいコープとの交流・仲間づくり」について

2021年度の共生会活動は前年以来のコロナ禍による制約の下で対面による生協組合員との交流や会員同士の集まる機会をつくることが困難な状況が続きましたが、農産の生産者は感染予防対策に取り組みながら野外での農作業体験企画（大郷みどり会「田んぼに行こう」7回実施、七郷みつば会「トライ田んぼ」13回実施、秋保ゆうきの会「たねまきプロジェクト」4回実施）に協力し、また Wa! わぁ祭りへの動画出展をはじめとするオンラインでの情報発信をすすめることができました。

あいコープみやぎの Wa! わぁ祭り 2021 は、オンラインイベントを11月の一か月間にわたり展開するという形で開催されました。幹事会からは菅原幹事と大須賀幹事が実行委員会に参加しました。実行委員会の呼びかけに応え、65会員が75本の動画を展覧しました。展覧された動画の再生回数は6701回でした。（オンラインイベントという祭り方針に呼応して、共生会ビデオレター第二弾制作については、各会員の動画出展に方針転換しました。）

農産、水産、畜産の生産者のトークライブ「ジョブチューン」には18会員が参加し、普段の仕事ぶりと今後の課題を率直な言葉で語り合い、視聴した組合員から好評を得ました。

「ジョブチューン」に寄せられた感想

【農産】「生産者の方々が明るくて面白くて、画面越しに笑っぱなしでした。日々自然と虫と草との戦いで大変である事、それでも無農薬や減農薬を続けて下さっている事、時々垣間見える情熱と優しさ。とても素敵でした。私はこんな素敵な方々の作った野菜や果物を日々口にしていたんだなあと、嬉しくなりました。そりゃ美味しい訳だ！」

【畜産】「あいコープ的畜産とは、こんなにも生産者の皆さんの努力があってこそ成り立っているということを、もっと多くの組合員さんに知らせたい。美味しいとか、安全のその先には、命が関わっていることも同時に学ぶべきで、わかって食べる組合員を増やしたい。命を相手にしているからこそ、より自然な生き方・環境を作るのは必要なことなのだと思います。」

【水産】「昨今の漁業が置かれている厳しい状況というのは報道等で色々と耳にしますが、あいコープの生産者さんの口からその厳しさを聞いたことで、問題がより身近に感じられました。海はさまざまな恵みをもたらしてくれる反面、私たちの社会から排出される色々な物質の影響を受けていて、良い魚が採れるかどうかは海的环境次第・・・という考えてみれば当たり前のことに改めて気がつきました。」

「文通」企画では36会員に対して組合員から計98通のメッセージが寄せられました。生産者からは一人一人の組合員宛てに返事を書いて送りました。

会員から提供してもらった協賛品は、商品の詰め合わせ「おまつり玉手箱」や「大抽選会」「パスちゃんとのじゃんけん大会」などの賞品に活用されました。「玉手箱」には37会員から43品の協賛品が提供され、限定150箱の募集に対して、223人の申込がありました。玉手箱の申込書のコメント欄には、Wa! わぁ祭りへの組合員の熱い想が多く寄せられました。当選された組合員からは「普段利用してこ

なかった商品を知る機会になった」との感想も寄せられています。「大抽選会」等には6会員の協賛品18セットが提供されました。

3年ぶりのWa!わぁ祭りは、コロナ禍で落ち込む気分を少しでも晴れやかすることにできたと参加者からの感謝の言葉がありました。生産者として祭り開催に参加することを通して、組合員との「顔の見える関係」を保ち組合員の暮らしへのお役立ちができたと考えます。

Wa!わぁ祭り以外でもオンライン交流企画が取り組まれています。9月19日には天童果実同志会がみやぎ地区委員会（青葉A、仙南）と天童オンラインやっぺしツアー生産者交流会を行いました。

あいコープ祭り（ふくしま）は残念ながら中止となっています。

あいコープみやぎでは職員教育として、生協職員が生産者との交流を通して自ら学ぶ「コアサイクル活動」、管理監督者層を対象とした「理念じぶんごとプロジェクト」などが盛んに取り組まれています。

「コアサイクル活動」には7会員（天童果実同志会、田尻エコ畜産協議会、タンポポ村、鎌田醤油、わ・は・わ大衡、ながめやま牧場、米沢郷牧場）が協力し、交流と学びの場を提供しました。（別紙コアサイクル報告書参照）「理念じぶんごとプロジェクト」には2022年1月までに7会員（花兄園、大郷みどり会、あいちゃん牧場、菅野食品(豆腐)、わ・は・わ大衡、七郷みつば会、パン工房わ・は・わ）が生産現場の視察を受け入れました。この他、組合員拡大を担っている営業課職員の研修に七郷みつば会が協力しました。

年度を越えてしまいましたが、1月13日にみやぎ理事会と幹事の交流会を行いました。新型コロナウイルスの拡大に向かう直前のタイミングで対面方式での交流を行うことができ、1期目の理事の皆さんとは初顔合わせとなりました。まず互いの自己紹介に時間をとり、また2025年ビジョンについての意見交換を行いました。

あいコープふくしまとは高橋徳治商店への職員訪問、天童果実同志会との交流会、靴の相談会、森農園に職員研修、代表訪問各1回、計の5回の交流が行われました。

2021年度、「株式会社匠集団そら」が新たにあいコープ共生会に入会しました。

②共同研究

農法研究会の活動は2021年の農法研究会の活動方針に掲げた大きなテーマとして「安全安心で、栄養価が高く、おいしさの見える農産物を」を掲げました。その中で、取り組み項目として4つの項目に実際に取り組みました。

i 産地同士での技術の共有、検証を行う

取り組んだ実験の状況確認、課題の共有と解決方法の検討をコロナの影響を受けつつも、2回の現地検討会にて行いました。全体的に、土を作るということに重点を置いた実験が多く、太陽熱養生処理による病害虫防除、抑草技術の模索、団粒土壌化に取り組む産地が多くありました。

2021年3月4日 農産協議会オンライン報告会 生産者23名 生協役職員13名

7月15日 農法研究会現地検討会（大郷、迫） 生産者19名 生協職員他3

7月29日 農法研究会現地検討会（七郷、秋保） 生産者14名 生協職員2名

11月18日 日本土壌協会共同事業学習会 生産者8名 生協職員2名

ii 食味をあげる栽培方法の模索、実践、分析

食味検査、残留農薬検査の実施をし、分析値によるおいしさと、安心の見える化を行いました。数値から見えてきた改善点を、今後の栽培技術へと落とし込み、成果としての価値をさらに高めていくことを今後の目標とします。(栄養成分検査 23 件、残留農薬検査 4 件)

iii 情報発信の多様化(オンライン等)への取り組み

対面交流ができない中でしたが、組合員向けの報告会をオンラインで行い、成果報告を行いました。SNS による発信にも取り組みましたが、活動の回数や、更新者の負担もあり、頻繁な更新ができませんでした。農法研究会として、どんな人に、何を発信していくかを、さらに考える必要があると思います。

上記とは他に、日本土壌協会との共同事業として、土壌のマッピング事業に取り組みました。土壌の成分分析の他、硬度計による物理的な土の分析を N T T の協力のもとマッピングしていくというものでした。硬度を調べることによる、作物の根はりの見える化に繋がると思われ、土づくりに重点を置いてきた農法研究会の実績がより見える化できると考えています。なお、この事業は 2 年間の事業であって、2022 年度も実施予定です。

③商品作りと利用促進

わ・は・わ大衡がみやぎ職員のコアサイクル活動と協力してスコーンの開発に取り組み、利用促進をおこないました。スコーンは 11 月 3 回デビューで表紙に掲載、1000 点以上の受注がありました。お菓子で 1000 点超えるのは初めてのことです。

あいコープみやぎの登録米利用促進キャンペーンを助成しました。優秀な成績をあげた職員の表彰式には西塚幹事が参加し、産直米産地を代表してあいさつしました。

NPO 法人とうほく食育実践協会の食育事業のオンライン対応のための物品購入を助成しました。

商品提案に関する学習会は開催できませんでした。

④品質管理・生産技術の向上

社会福祉法人みんなの輪は PB 商品等の生産や供給にとどまらず様々な形であいコープの事業のパートナーとして活動されています。昨年 11 月に本格稼働したあいコープみやぎミートセンターにおいても、包丁を使う作業以外のすべての作業が社会福祉法人みんなの輪の利用者の皆さんと共に組み込まれています。障害をもったみんなの輪の利用者と利用者をサポートするみんなの輪職員の皆さんが基本的作業を丁寧に学習し、食肉加工に求められる衛生管理水準をクリアして、産直肉事業を担っています。

昨年 HACCP 義務化への対応について会員アンケートを実施し、会員から回答をいただき、回答をよせていただいた会員のほとんどで義務化についての対応が完了していることを確認できました。(アンケート結果は別紙) またアンケートで他社の生産現場での取り組みを学びたいとの要望も出されており、1 月 28 日にオンラインで小規模生産者を中心に 9 会員が参加して HACCP 学習会を開催しました。パン工房わ・は・わでの実践レポートを切り口として煩雑になりがちな記録類を現場で持続可能なやり方にするにはどうしたらいいか等意見交換を行いました。

⑤石けん運動・環境保全

Wa! わぁ祭りオンライン企画「石けんの使い方」に石けんメーカー2 会員（エスケー石鹸、太陽油脂）が参加し、組合員の質問に答えました。この企画の中で紹介された「紙パック入りのボディーソープ」は組合員からの要望を受けて、まんま通信での企画が決まりました。

⑥脱原発の取り組み

ALPS 処理水の海洋放出反対署名への協力を会員に呼びかけました。

⑦被災者支援と地域福祉

あいコープみやぎ機関紙あいあいあい震災 10 周年記念号が発行されました。被災した 4 会員からインタビューや原稿を寄せていただき、思い思いのメッセージを記した震災十年のプラカードを掲げた写真を集める「メモリアルアクション」には 55 会員が参加しました。

2 年前のコロナ感染拡大で消毒液の品不足が起きた際に始まった微酸性電解水をあいコープ組合員へ届ける組合員活動が、高橋徳治商店の協力により 2021 年度も続けられました。

あいコープみやぎでは出庫限界を超えた在庫を子ども食堂に提供していますが、会員からも子ども食堂への食材提供が取り組まれています。

あいコープ共生会自然災害基金に初年度の 10 万円を積立てました。（決算案参照）

以上